



2025

4

第419号

真宗天谷派京都教区 教化広報誌

教区だより

特集

地区紹介 長浜、御越^{と おつ ねん}年法要

丹波^{かみしも} 報恩講と禊

部落差別問題に学ぶ同朋協議会

教区協議会委員交流研修会

レポート

今、この時に、親鸞聖人に会う

教区駐在教導 赤松^{あかまつ} 崇磨^{たかまる}氏

長浜特区紹介

長浜第12組、長浜第24組、敦賀組

長浜教化センターの取り組み

長浜教化センター教化本部長
長浜第19組 西教寺 北辺 禎雄



長浜特区では、昭和54年に起こった長浜・五村両別院離脱問題により、「寺は誰のためなのか」「私たち一人ひとりが真宗門徒となれているのか」という課題が見出されました。その後今日まで、「役員会の開催」「月例役員会の開催」「月例同朋会の開催」に取り組んできました。教区改編後も別院離脱問題から見出された課題を忘れずに、特区全体で取り組みを続けていかなければならないことが、長浜教区として最後となった同朋大会にて確認されました。

長浜特区は、これまでの教化の取り組みを継続するため、長浜別院に「長浜教化センター」を設置し、長浜・五村両別院を中心とする教化事業を行ってまいります。

2024年の長浜・五村両別院の報恩講には、湖東地区・湖南地区・湖西地区・若狭地区のみなさまからも出仕・

参拝いただきました。このような新たな聞法の間法（豊かな出会いの間法）が特区全体に広がっていくことを願ひ、

両別院をはじめ、それぞれにおいて開催される研修会・聞法会を、会員だけを対象とせず、できる限り公開としていただき、特区内外に向けて、幅広くお知らせいただけるよう正副組長、組教導、正副門徒会長、諸団体の方々に、お願いしてまいります。

只、仏法は聴聞に
きわまることなり

（蓮如上人御一代記聞書）

真宗聖典第二版1063頁

長浜特区では、これまでの聞法の間法を大事にしつつ、新たなお仲間との出会いの間法を開いてまいりたいと思います。

子ども報恩講

青少幼年部会
長浜第15組 願養寺 長美幸



1月12日、子ども報恩講、テーマ「みんなつながっているわ」が五村別院で動きました。

新教区となり、湖東地区、湖西地区からも参加していただき、参加者、スタッフを合わせ約110名が親鸞聖人のご命日をご縁としてお勤めをし、お話（劇）を聞き、レクリエーションを行いました。

代表児童を中心に子どもたちのお勤めの声は、堂内いっぱいに広がりました。お話（劇）は、「みんなつながっているわ」をテーマにスタッフが夏より企画、作製したもので、劇

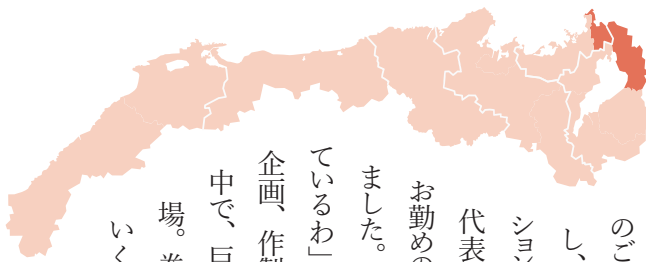
中で、巨大な巻き物が登場。巻き物が開かれていくと、全長6メートルに数えきれない程の

先祖様が描かれていました。名付けて、「先祖代々図」が出現。「わあ」という驚きの声とともに、何人いるのかと数える子どもも

ち。だれ一人欠けても自分は生まれてこなかったという事、果てしない、いのちのつながりがあるという事を一緒に考える時間を持つことができました。レクリエーション（じゃんけん列車、猛獣狩りへ行こうよ、コーナーゲーム、お楽しみ抽選会）は、大人も子どもも、元気な笑い声とともに盛り上がりました。

閉会式での子どもたちのインタビューでは、「たくさんのいのちのつながりがあつて、自分が今ここにいることを、知ることができてよかった」と答えてくれました。恩徳讃を唱和し子ども報恩講は閉会しました。

子ども報恩講を通じて、青少幼年教化の重要性を確認すると同時に、スタッフが子どもたちと同じ目線で学ぶ場としても大切にしていきたいと思ひます。「みんなつながっているわ」



先祖様が描かれていました。名付けて、「先祖代々図」が出現。「わあ」という驚きの声とともに、何人いるのかと数える子どもも

特集

御越年法要

流を酌んで本源を尋ぬる

乗如上人御越年法要に参詣して

出版部会
比叡谷真



去る一月六日、乗如上人御越年法要（以下「御越年」）にお参りした。これまでも何度か参詣しているが、新教区になって初めてのご縁と思ひ、今回の会所である滋賀県長浜市高月町井口地区の井口会議所にかがった。

御越年は、例年十二月二十六日から翌一月八日まで、湖北三郡（伊香・浅井・坂田）地域、すなわち長浜特区内でお勤まりになる法要で、天明の大火で焼失した両堂の再建や、教学振興に尽力された本願寺第十九代乗如上人のご遺徳をしのび、旧伊香・下浅井・旧坂田山西・旧坂田山東・長浜市内・上浅井の順に年々会所を回して開催されている。そうだが、両堂再建に身をもつてご苦労された湖北三郡のご門徒に対して、第二十大達如上人が授与された乗如上人の御影二幅は、年間、特区内各地を巡回されているが、年末年始は一所にご逗留され年を越されるというのが、法要名の

めていただき直すきっかけとなるのではないか。見習って、様々な法要行事で採り入れたいと思う。

由来と聞く。湖北一円にご門徒が組織された二十二日講（二十二日は乗如上人御命日）が法要を主催し、長くご門徒のお宅を開放して会所とされてきた。私がお参りしたお座では、正信偈三首引きのお勤め・御消息拝読の後、長浜第二十一組禮信寺住職山田孝夫師のご法話をいただいた。特区内遠方から足を運ばれた方もおられ、多くの人が熱心に聴聞されていた。

そして、高月町井口二十二日講同行の皆さんも、会場運営や地区内での交通誘導・駐車場係等にご苦労いただき、とてもありがたく、若い方も関わっておられ心強く感じた。

また、例年同様、志納所で法要の冊子をいただいた。御越年の由来や日程法要次第、勤行に用いる正信偈念仏和讃などが載っていて、私のように他所からお参りした者にはとても参考になる。関係者にとつても、法要の意義をあらた

今回、ご法話のある日（十二月二十六日～二十九日及び一月五日～八日）の会所は地区の会議所とされていた。昨年はお寺であったと聞いている。御越年も過渡期にあるという印象を受けるが、ひるがえって、琵琶湖の対岸にある私たち湖西地区で、長年乗如上人のご縁をいただき続けてきた高島秋講（以下「秋講」）も、同様に過渡期を迎えている。

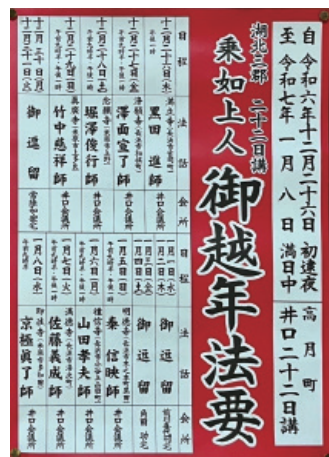
ただ無批判に旧来の形式を守ることが本来的な意味での伝統ではなく、秋講についていえば、そもそもお寺を会所としていることから、ひらかれた聞法の間であるとともに、特に僧侶にとつて儀式・声明の学びの場としてより機能するよう、自身を再考改善すべきであると思う。だが、今回、御越年を通して、乗如上人・達如上人や授与された御影を護持してこられた先輩方の願ひにふれ、「流を酌んで本源を尋ぬる」こと、すなわち先人の後をたどって、ともに教えを聞く場がひらかれ続けるよう、大切に次世代の人々に伝えていきたいの思いを新たにしたい。



ご法話



荘厳



ポスター

寺でお勤めができる喜び

丹波第1組 満林寺 黄楊川 淳まつりん つけがわ あち

表紙の写真は、令和六年十一月十日の報恩講御満座開始前の集合写真である。寺から坂を下ったところにプロのカメラマンがお住まいで、「袴を着けている姿を記録として写真に撮らせてもらえないか」という提案をいただいて実現した。江戸時代末頃の撮影方法で撮られた写真は当方にそのつもりはなくとも歴史の重みを感じさせてくれる仕上がりと化した。

※八年前の「教区だより」に「丹波第1組の報恩講では、十二ヶ寺すべての寺で門徒が袴を着けてお勤めをする」ということを組の紹介記事として掲載していただいた。組がある京都府南丹市美山町を訪れられる方々には「珍しい」「大事に残してほしい」ということをよく言っていたのだが、当時このような記事を出したのは「袴でのお勤めをやめたい」という意見が出ていたからである。理由は様々にあるが、袴にかかわる様々な手

間が一因であろう。現在、組内で袴を付けてお勤めしているのは二ヶ寺となった。

私がこの満林寺で生活するようになって十三年が過ぎた。この間、報恩講にかかわる様々なことが簡素化されてきた。花立て、お華束盛りなどは実情に合わせてやりやすい形に変更した。それに伴い、準備も一日から半日、しかも入逮夜をお勤めする土曜日の午前中だけでできるようにした。報恩講にかかわる拘束時間を短くしたのである。一方で、お勤めの回数・内容は減らさず、講師を招いての法話も続けている。

ではなぜ「手間がかかること」を減らしているのか。簡単に言えば「人手不足」なのである。小さな集落の山寺であるからそもそも門徒戸数は多くないが、近年に約二割の門徒が抜けた。十年前までは二世代で準備・お参りをしていただいていたが、上の世代が抜けても下の世代には継がっていない。しかも、



集落・地域の各事業でも同様の状況だ。振興会、消防団、神社、地区など担わなければならない業務はたくさんあるが、動ける人は減る一方。加えて、農作業は時を待ってくれず、作物を荒らす動物たちは容赦なく破壊を繰り返す。積雪は昔より少しマシになったが、雑草はすぐに成長し、草刈はやめられない。

そんな忙しい中、お勤めをしていただけなら、減らせる手間は減らしたらという考えである。そして門徒の皆様とともに「なまんだぶつ」「正信偈」「聞法の機会」を守りたいのである。そのことが自坊の満林寺、住職を代務する最尊寺、唯然寺、善西寺、正願寺のご門徒さまからいただく御恩への報いになってくれていればと願うばかりである。

「苦しい」ことをいろいろ書いてみたが、みなさんは写真の表情から何を感ずるでしょうか。「袴姿を残す」目的でしたが、私には、四百周年となる満林寺にかかわってきた人たちの想いが、「喜び」として映し出されたのではないかと感じています。

表紙写真は、美山町在住のフォトグラファー、森本徹氏による作品。美山の写真集を作るため、江戸時代の技法、湿板写真で美山を撮影中。湿板写真は鏡像(左右反転)で仕上がります。詳しくは森本氏のホームページで知ることが出来ます。美山フォトスタジオ
<https://miyamaphotostudio.com>

- 1 右上写真 森本氏の妻、ティナ・バゲ氏撮影
- 2 右下 満林寺報恩講の様子。ティナ・バゲ氏撮影

※教区だより 第339号(2017年2月号)の記事は、こちらから

<https://www.k-kyokurei/archives/3600>



部落差別問題に学ぶ同朋協議会 教区協議会委員交流研修会

大切にしていること

部落差別問題協議会
長浜第13組 真入寺 伊藤 慈成



1月28日京都教務所2階大講堂で「部落差別問題に学ぶ同朋協議会教区研修会（教区協議会委員交流研修会）」が23名の出席で開催された。教区改編で再編成された「部落差別問題に学ぶ同朋協議会」では、全委員が3班に分かれ各学年1回研修会を担当、今回はその第1回目となる。

協議会委員が揃って顔を合わせるの

総会以来2度目で、総会出席の委員から「せっかく集まったのに、委員同士もつと意見交換できる時間が欲しかった」等の意見が聞かれた。各委員はそれぞれの立場で部落差別問題を課題としてきたが、新しい出会いの場では一人ひとりがどのような思いや願い、背景やきつかけで課題としてこられたのかわからない。そこで、第1回目はお互いを理解する

ために「出あいと交流」に重点をおいたワークショップ（ワールドカフェ方式）の「交流研修会」が計画された。

5つのテーブルに分かれ、30分の制限を設け各テーブルで自己紹介や「部落差別問題を通して自分が大切にしていること」を主テーマに意見交換を実施。

その後席替をして計4回繰り返した。終了後「人を知ることができた」「良い意見交換ができた」「今までの研修会だと空気が重くなりがちで話すことができなかったが、今回は自由に話せた」等の意見が聞かれ、その後の懇親会でも活発な意見交換が続けられた。



以前、教区改編のメリットに、新たな「出あい」があり、出あいがあるからこそ「広まり」、新たな「深まり」が生まれていくとの話をお聞きした。今後の「部落差別問題に学ぶ同朋協議会」の「広まり」や「深まり」を期待せずにはいられない。

ひとひと 男と女の平等って、なに？

お寺の未来を担うのは？

湖北地方では、赤ちゃんが生まれると「赤ちゃんをもらわはった」と言う。これは、この土地の土徳を表す言葉のひとつである。おかげさまで、私も三人の娘をもらった。

出版部会 長浜第12組 真廣寺 竹中 亜希子

上の二人は歳が近いが、三女は長女と十歳離れている。お寺の子は後継ぎという考えから、三人目は男の子が生まれるといいなど、家族や門徒さんたちは心のどこかで期待していたと思う。しかし、子どもは授かりもの。私は、男の子に負けないくらい元気な女の子を

無事に出産し、ホッとしました。

ところが、出産後まもなく、主人が同世代の門徒さんから「もう一人頑張らんとあかん」と言われたと聞き、私はがっかりした。「はあー?」。男の子でも女の子でも、出産の大変さは変わらない。その時の脱力感、今でも忘れられない。

それから、もう16年が経つ。三人とも小学生の間に得度式を受け、自坊の行事では鐘撞きをするのが当たり前になっ

た。報恩講の際には、二人揃って配卓・撤卓を手伝ってくれるまでに成長した。

長女と次女は就職と同時に一人暮らしを始め、今は高校生の三女が家族の視線を一身に集める日々である。

誰かがお寺を継いでくれるのかはまだ分からない。それでも、お寺で生まれ育ったことが、彼女たちのどこかに刻まれていてほしいと願っている。

今、この時に、

親鸞聖人に会う



不可思議の功德

出版部会 教区駐在教導
近江第7組 遠慶寺

赤松 崇磨



南無阿弥陀仏とは、どういう意味なのでしょうか。

2012年から2年間、真宗大谷派の教師資格を持つ者を対象とした研修会「伝道研修会（伝研）」に参加しました。

これは1泊2日の研修を2年間で6回受けるもので、このときは第12期、講師は真城義磨先生でした。当時34歳。多

くの僧侶とともに学ぶのは、教師修煉以来十数年ぶりのことでした。

それまで東京でグラフィックデザイナーとして働いており、法話を聞く機会ほとんどありませんでした。それでも大谷派教師資格は持っていたので、「多少は真宗の教えを理解している」と思っていました。なか

なか面倒な人間だったと思います。いまは違うと言いたいところで。とにかくそういう生活をしておりまして。2011年12月に滋賀の自坊へ戻り、翌月から伝研が始まりました。

伝研では「法話実習」があります。15分間の法話を考え、30名ほどの僧侶の前で話します。緊張のあまり体重が50kgほど減ったんじゃないかというほど汗をかきましたが、夜の懇親会ではすっかり気が緩み、51kg分食べて元に戻りました。

真城先生の講義は明快で、特に「南無阿弥陀仏の語源」について理路整然と話されたのを昨日のことのように思い出



します。後日、自坊の聞法会での話をしました。そこには祖父の代から通い

続けている大町さんという方がいました。あちこち聞法会に出かけられる熱心な方です。

法話が終わると、大町さんは目を輝かせて「よう勉強してるなあ」と褒めてくれました。嬉しくなり、さらに感想を聞きたくなりました。大町さんは続けました。「あなたよう話すなあ。わしは若い頃、あなたのお爺さんに聞いたことがある。ナムアミダブツって何や？って。あなたのお爺さん、何て答えたと思う？」

私は祖父から念仏の話聞いた覚えがなく、何か間違ったことを言ってしまったのかと少し不安になりました。大町さんは力を込めて言いました。「お爺さんは、「知らん」と言うたぞ」ドキッとしました。

大町さんは、私が生まれる前、当時の私と同じ30代くらいの頃に「南無阿弥陀仏の意味」を知りたくて祖父に尋

ねたのでしょうか。どんな気持ちだったのでしょうか。

何かを「わかる」と、一瞬嬉しくなります。しかし、「わかる」にとどまると、わかり合えない悲しさを覚えることもあります。目の前の人や世の中に向き合っていたものが動き出すこともあります。

大町さんは、以来40年近く、毎月欠かさず聞法会に通い続けました。私が大町さんから祖父の話聞いたこの時、大町さんはとても嬉しそうで、楽しそうに見えました。

それから10年以上が経ちました。この10年間担当した葬儀では、特別な事情がない限り、満中陰までの七日ごとのお参りが勤まってきました。和讃に触れて法話するのですが、満中陰の和讃に不可思議の功德が出てきます。

五濁悪世の有情の
選択本願信ずれば

不可称不可説不可思議の
功德は行者の身にみたり

『正像末和讃』真宗聖典第二版613頁
ここでいう行者とは、念仏の生活を
されている人のことでしょうか。亡くなら
れた大町さんのあの時の姿を、いまでも
はつきりと思い出します。

京都教区 4月の教区事業

9日(水)	9:30~15:30	坊守会 基礎講座 (Zoom 併用)	しんらん交流館 会議室A~D
9日(水)	16:00~18:00	准堂衆会 声明会	教区会館 3階 研修室
11日(金)	9:30~15:30	親鸞ウォーク	長浜別院 大通寺
14日(月)	13:00~17:00	湖東地区 推進員研修会 法話 竹中慈祥師 (長浜組 真廣寺)	品野町司民会館 わたむきホール虹
21日(月)	13:30~16:00	出版部会『教区だより』公開講演会	教区会館 2階 大講堂
23日(水)	16:00~18:00	准堂衆会 声明会	教区会館 3階 研修室

京都教区 4月の教区諸会議

3日(木)	13:00~16:00	部落差別問題に学ぶ同朋協議会 常任委員会 拡大会	Web 会議 (Zoom)
9日(水)	13:30~16:30	特区・地区 教化委員長会	教区会館 2階 大講堂
9日(水)	16:30~18:00	企画室 会議	教区会館 2階 大講堂
11日(金)	14:00~16:30	教化本部 研修講座部会 会議	教区会館 2階 大講堂
15日(火)	13:30~16:30	第2回 財政委員会 総会 (門調総会兼)	しんらん交流館 大谷ホール
18日(金)	13:00~15:00	教化本部 青少幼年部会 会議	Web 会議 (Zoom)
28日(月)	13:30~17:00	教化本部 部会委員合同懇談会	

教務所からのお知らせ

住職任命者

二〇二五年二月二十八日付

- ・長浜第二十組 空念寺 園大寛
- ・長浜第二十四組 長照寺 福田義元
- ・因伯組 萬福寺 藤野 顕生

敬弔

ご生前のご功労を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

- ・近江第四組 西方寺 坊守 斯波弘子 八十四歳
- 二〇二四年十二月二十五日
- ・近江第七組 善休寺 住職 藤野博也 六十五歳
- 二〇二四年十二月十日

- ・近江第九組 乘蓮寺 前任職 澤田正人 八十歳
 - 二〇二五年二月八日
 - ・近江第二十五組 長光寺 前任職 采翠徹 八十三歳
 - 二〇二五年一月十六日
 - ・近江第二十六組 信廣寺 住職 佐々木宏樹 六十一歳
 - 二〇二四年十二月二十六日
- (寺院教会番号順 敬称略)

長浜教務支所の現金取扱日について

今年度下半期(2025年3月~6月)の長浜教務支所の現金取扱日は左記のとおりですのでお知らせいたします。

4月14日(月)	4月28日(月)
5月12日(月)	5月26日(月)
6月9日(月)	6月23日(月)

教区だより表紙写真大募集!!

本誌表紙写真を大募集いたします! テーマは宗祖親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要テーマ「南無阿弥陀仏人と生まれたことの意味をたずねていこう」です。詳しくは京都教務所(担当:赤松)まで、お待ちしています!



仏教讃歌と雅楽のつどい

長浜・五村別院楽僧会70周年と、混声合唱団「かがやき」10周年を記念して、「仏教讃歌と雅楽のつどい」を開催いたします。入場無料、事前申し込み不要です。ご家族、ご友人お誘い合わせの上、ぜひご来場ください。

【日時】4月20日(日)

13時開場、13時30分開演

【会場】米原市長岡ルツチプラザ内

ベルホール310



依頼「令和6年能登半島地震」

災害に対する救援金の勧募について

昨年(二〇二四年)一月一日に発生した能登半島地震から一年余り経過いたしました。これまで、教区内のみならず、被災地の支援にご理解をたまわり、救援金をお寄せいただいておりますこと、この場をお借りして御礼を申し上げます。

このたびの地震の影響を受けた北陸の地は、真宗門徒の多い地域であります。とりわけ震源地である能登地方は多くの寺院・ご門徒が甚大な被害を受け、今もなお深い悲しみと不安の日々を過ごされております。真宗大谷派として、今後とも全力を傾注して支援策を講じてまいります。地震発生直後から、真宗大谷派寺院の被害状況や今日までの支援活動の様子などは、真宗大谷派Webサイト内でも随時お知らせ更新しております。また、公式SNS(X)でも発信しています。

京都教区としても、息の長い被災地支援を続けてまいりたいと存じます。なにとぞ趣旨をご賢察たまわり、救援金勧募などの被災地の支援に引き続きご協力ください。よろしくお願いいたします。

真宗大谷派Webサイト内
令和6年能登半島地震について

災害情報公式X(旧ツイッター)



京都教区別院 4月の行事予定

1日(火)~16日(水)	長浜	大通寺 馬酔木展	長浜別院
6日(日) 14:00~16:00	伏見	声明作法講座 法話 浅井誠師 (山城第3組 皆演寺)	伏見別院
7日(月) 14:00~16:00	五村	五日会(連続講座) 法話 東館紹見師 (大谷大学教授)	五村別院
7日(月) 14:00~18:00	伏見	伝研自主学習会 宮城類選集『浄土論註聞記』輪読	伏見別院
10日(木) 14:00~16:30	伏見	伏見別院同朋会 御文輪読	伏見別院
13日(日) 10:00~11:30	岡崎	三日講「味読正信偈」 法話 福田大師 (別院輪番)	岡崎別院
15日(火)・16日(水)	赤野井	教如上人忌法要 (15日速夜 14:00 16日晨朝 8:00 16日日中 10:00) 法話 中杉隆法師 (山陽教区 西林寺)	赤野井別院
17日(木) 13:30~16:30	山科	同朋の会 法話 磯野恵嗣師 (山城第1組 新道寺)	山科別院
17日(木) 19:00~21:00	伏見	親鸞教室 法話 藤原正寿師 (大谷大学准教授)	伏見別院
19日(土) 14:00~16:00	岡崎	落慶法要記念行事 落語会 落語 笑福亨仁智氏	岡崎別院
23日(水) 14:00~16:00	長浜	しんらん講座 法話 訓覇浩師 (三重教区 金蔵寺)	長浜別院
23日(水) 14:00~16:00	大津	同朋の会報恩講	大津別院
25日(金) 14:00~16:00	山科	八代講 法話 平原晃宗師 (山城第5組 正蓮寺)	山科別院
26日(土) 14:00~16:00	岡崎	岡崎別院総合整備 落慶法要 法話 真城義麿師 (四国教区 善照寺)	岡崎別院
27日(日) 12:00~13:00	赤野井	定例法要(宗祖親鸞聖人) 法話 中川眞師 (別院輪番)	赤野井別院
27日(日) 14:00~16:00	伏見	ご命日のつどい 法話 山本成樹師 (本願寺派 願生寺 三藐、ピハール僧 京都病院)	伏見別院

岡崎別院

大改修 納骨堂完成

落慶法要

4月26日(土) 午後2時



ご門首御親修 法話 真城義麿師 (四国教区善照寺住職、真宗大谷学園専務理事)

記念行事 4月19日(土) 落語会 午後2時 無料 事前申込制 | 5月11日(日) フェスティバル 花まつり 午前11時 無料 | 岡崎別院 京都市左京区岡崎天王町26

京都教区公式SNS



公式SNSで更新情報などを配信しています。1,000カ寺を超える寺院・教会がある京都教区ですが、登録者数はまだまだ少ないです！ぜひご登録をお願いします！

LINE公式アカウント
2025年3月3日現在登録者数146名
LINE ID @441foywe



Facebook
Instagram
もちろんあります！



一編一集一後一記

昔の話になります。大学で放送に携わる活動をしておりまして、学内放送や学園祭のイベントなど情報を発信する側に身を置いていました。一度、某FM局から番組コーナーの制作依頼を受けまして、原稿や音源を用意して、いざ収録となったときにスタッフから「ちょっと宗教色が…」と言われ全音源差し替えという経験をしました。「まあ公共の電波に乗せるのだから致し方無いかなあ」と当時の思いが残っています。今は誰しもが「発信者」となりうる時代となりました。その「一言」の重みを忘れてはいけなさと感じます。(出版部会 藤野勝)

【表紙の写真】「美山町満林寺門徒の袴姿」(森本徹/美山フォトスタジオ)

